

答 市内16小学校区で各地区地域福祉推進委員会が中心となり地域福祉推進を進めている。地域福祉の活動拠点としては、地区公民館や集会所、学校等を、ふれあいの交流の場として活用している。今後地域との連携、協力を得ながら地域財産を地域福祉の活動に活用したい。学校施設の開放も、今まで以上に連携を図りながら地域福祉を担う場として活用したい。

問 檀原運動公園は、昭和52年に都市計画決定し、平成25年度末で整備事業が終了した。総事業費は158億円である。今後、維持管理、改修と進んでいくと思うが、市民がもっと利用できるように考えてもらいたい。運動公園も含め市内のスポーツ施設の現状は。

答 檀原運動公園には、総合プール、テニスコート9面、軟式野球場1面、硬式野球場1面、ソフトボール場1面、多目的グラウンド、まほろば広場、屋根付き運動場等がある。25年度の利用は、運動公園部分で約9万7千人、総合プールで約10万4千人である。香久山体育館には、アリーナでは、バレーボール、バトミ

ントン、ソフトボール、卓球、バウンドテニスが利用でき、トレーニング室もある。平成25年度は約7万8千人の利用である。万葉の丘スポーツ広場には、パターゴルフ場、テニスコート6面、アーチェリー場があり、約9,300人の利用である。曾我川緑地体育館には、アリーナ、トレーニング室、武道場、スポーツスタジオ、テニスコート2面、多目的グラウンド、ピロティ

が完備され約13万2千人の利用がある。東竹田ドームには、アリーナ1面、テニス、フットサル、バトミントン場があり、約2万2千人の利用がある。いずれの施設も、利用者は増加傾向であり、安全で安心して利用できる施設運営に努めている。学校開放事業は、16小学校、6中学校の体育館及び運動場で、延べ約39万人の利用がある。中央体育館は、競技別ではバトミントンが17団体、バレーボール9団体、卓球8団体、ソフトバレーボール7団体、バスケットボールとバウンドテニスが各2団体、インドアのソフトテニスの1団体が利用しており、中央体育館の主催事業としてソ

フトテニス教室とジュニア剣道教室を募集している。25年度の利用件数は877件、3万9,350人、利用率92.7%である。

問 先日、檀原運動公園のまほろば広場で、グランドゴルフの大会があったが、このような団体や学校体育を含めた市内のスポーツ団体の現状と名称が変わった体育協会について聞きたい。

答 体育協会は平成26年4月1日より公益社団法人へと移行し、「檀原市スポーツ協会」と改称し、市を代表する公益スポーツ団体として安定かつ発展的な運営をされることになった。この協会が所管する競技団体は競技スポーツ、レクリエーションスポーツ、小学校体育研究会、中学校体育会を合わせ33競技団体で7,729名が登録している。

問 後期基本計画に、総合型地域スポーツクラブについて、「子どもから高齢者までの幅広い世代がそれぞれのレベルに応じたスポーツ活動に気軽に参加できるように地域住民の自主運営によるスポーツクラブ」とある。これは県が中心となって進めたと思うが、

本市の状況及び課題等は。

答 平成19年に香久山総合型スポーツクラブが設立された。その後、サッカーを母体に活動していたポルベニルカシハラスポーツクラブが総合型クラブに移行し、また、県立檀原公苑第2体育館を拠点に活動していた檀原健康スポーツクラブは平成20年に総合型スポーツクラブとして設立された。ポルベニルカシハラは、文科省の補助事業としてトッ

プアスリートによる巡回指導等を展開しているが、補助期間終了後の安定した運営が課題である。また、誰もがスポーツに親しめる環境づくりが不可欠だが、スポーツをする子としない子の二極化や、少子化に伴い各学校単位でチームを結成することの困難さ、また単一種目等で構成されたサークル等のメンバーの固定化や高齢化が進むなど、必ずしも地域住民が気軽にスポーツ活動を楽しめる環境となっていない。各クラブとの連携を密にし、サポートなど積極的にやりたい。

問 知事はスポーツ振興に非常に前向きな発言をしている。本市には佐藤薬品スタジアム

(檀原球場)や陸上競技場など県の施設がある。施設も含め県と十分連携してもらいたい。市長の考えを聞きたい。

答 県は抜本的な改修を考えていると思う。また東京オリピックに向け県からトップアスリートの誕生も願っていると思う。檀原運動公園の整備事業が1区切りし、畝傍山を中心に、東西の大きな運動施設が上手くつながる可能性が見えてきた。北には今度、

県立医科大学が移転し、畝傍山を囲む形でスポーツ、まちづくりが上手く展開していくのではと思っている。上手く県と連携をとっていきたい。

問 畝傍山を中心としたものなどや、特筆すべき取り組みはあるのか。今後の計画は。

答 2020年には東京オリンピック・パラリンピックなどもあることから、スポーツに対する関心が高くなることが想定される。本市も、その年にトップアスリートの年齢に達するであろう小学生を対象に、キッズヘキサスロン事業を実施しており、今年度は市内の4小学校で始め、年次的に全小学校に導入する計画